

老年看護学（講義4単位 実習4単位）（専門分野）

1. 老年看護学の考え方

老年期の対象は、人生の最終ステージを自己実現に向けて生きている存在であり、経験に裏付けられた知識と生活の厚みを持つ社会の資産である。一方、加齢変化による種々の身体機能低下が日常生活に影響を及ぼす過程でもある。現在、超高齢社会が到来し、後期高齢者人口の著しい増加率を迎えている。そのため、身体機能の低下や疾病により日常生活機能が低下し、寝たきりや認知症などのケアを必要とする人々が増加する一方、医療改定に伴い入院期間の短縮、家族の介護力の低下や老々世帯及び独居高齢者の増加による社会問題が生じている。

老年看護学では、高齢者が慣れ親しんだ地域において、その人らしさを保ち人生の統合に向かうことができるよう、入院時から多職種との連携を図り高齢者の「生活の質」を充実させるための看護ができる能力を養うことが求められている。そのために、まず老年期の特徴とそれを取り巻く社会の視点で高齢者をとらえる。そして高齢者の生活を支える機関や取り巻く社会情勢を理解する。増え続ける認知症や日常生活に影響を及ぼす老年期特有の健康問題・予防活動など、健康段階に応じた日常生活援助と人生の最終段階にある高齢者への看護について学ぶ。実習ではこれらを統合して、入院中から住み慣れた地域での生活に向けて生活機能を維持するための看護援助が実践できるよう学習する。また、全ての学習を通して人生の最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を学ぶ。

2. 目的

ライフサイクルにおける老年期の多様性を全人的に理解し、その人らしい生活を送れるように、高齢者とその家族の健康生活を支える看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 老年期の特徴を全人的に理解する。
- 2) 高齢者を取り巻く環境を理解する。
- 3) 高齢社会における医療と福祉の意義を知り、多職種との連携と看護の役割を理解する。
- 4) 高齢者の健康の維持・増進、障害を予防し、自立したその人らしい生活を送れるような支援について理解する。
- 5) 加齢変化や健康障害により、生活機能が低下した高齢者への看護を理解する。
- 6) 高齢者と高齢者を介護する家族の生活を支える看護を理解する。
- 7) 人生の最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を身に付ける。
- 8) 老年期の特性を基盤に生活機能の視点から看護の展開方法を理解する。

4. 科目

老年看護概論

高齢者の日常生活を支える看護

高齢者の症状に応じた看護

老年看護の展開方法

専門分野・老年看護学 授業計画

授業科目及び時間数	老年看護概論 1単位 30時間		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	田村万寿美	実務経験	有
<p><科目のねらい></p> <p>核家族化が進み、人生の先達としての尊敬や畏敬の念を抱きにくい社会環境にある学生が老年看護学を学ぶ第一歩として、演習やグループワークを通し老年期について幅広く理解することをねらいとした単元である。</p> <p>人生の最終ステージを自己実現に向けて生きている老年期の対象と、後期高齢者人口の増加や家族形態の変化による社会情勢の変化と保健医療福祉制度の変遷と看護の役割について学習する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢による身体面・心理面・社会的側面の変化を理解する。 2. 社会情勢の変化と保健医療福祉制度の変遷と看護の役割について理解する。 			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1.オリエンテーション 2.老いるということ ～ 身体的・精神的・社会的変化 ～	講義	
2回目	1.高齢者体験	演習	
3回目	1.高齢者体験	演習	
4回目	1.高齢者体験グループ発表会：テーマ「高齢者体験を通して」	グループワーク発表会	
5回目	1.高齢社会における保健医療福祉の動向 テーマ「保健医療福祉制度の変遷」	個人作業	
6回目	1.高齢社会における保健医療福祉の動向（専門家）	グループワーク	
7回目	1.高齢社会における保健医療福祉の動向（ホーム）	グループワーク	
8回目	1.高齢社会における保健医療福祉の動向（全体発表） 2.補講講義	グループワーク発表会	
9回目	1.高齢社会と社会保障：高齢社会の統計的輪郭	講義	
10回目	1.高齢社会と社会保障：高齢社会の統計的輪郭	講義	
11回目	1.高齢者の権利擁護	講義	
12回目	1.高齢者の権利擁護	講義	
13回目	1.老年看護の役割	講義	
14回目	1.老年看護における理論	講義	
15回目	終了試験		
評価方法	筆記試験（80%） 演習・グループワーク及び発表会（20%）		
受講生に対するメッセージ	老年看護概論では、演習・グループワークが総講義時間のおよそ半数を占めています。自ら考え、積極的に参加することで知識を定着できるよう取り組んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 出版社：医学書院		

授業科目及び時間数	高齢者の症状に応じた看護 1単位 30時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	田村万寿美	実務経験	有
<p><科目のねらい></p> <p>1年次に学んだ解剖生理学・病態治療論を踏まえ高齢者に特徴的な症状を中心に学び、患者の生活・生命の質(QOL)を最大にすることを目的とした総合的・包括的な医療・看護の提供につなげられることをねらいとした単元である。</p> <p>世界に類をみない「超高齢社会」を迎え、多臓器の機能が脆弱化していく老化という過程により複数の疾患をあわせもつことが多く、それらは完治しないことも多い。それらに付随する高齢者の特徴的な症状について学習する。</p> <p><到達目標></p> <p>1. 高齢者の特徴的な症状を理解し、看護につなげる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1 老化と寿命	講義	
2回目	1. 認知・知覚機能の老化	講義	
3回目	1. 呼吸・循環・消化・吸収・代謝機能の老化	講義	
4回目	1. 排泄機能・免疫・運動機能の老化	講義	
5回目	1. 認知機能障害のある高齢者の看護(うつ・せん妄)	講義	
6回目	1. 認知機能障害のある高齢者の看護(認知症)	講義	
7回目	1. 認知機能障害のある高齢者の看護(認知症ビデオ鑑賞)	講義	
8回目	1. 症状のアセスメントと看護(意識障害)	講義	
9回目	1. 症状のアセスメントと看護(発熱)	講義	
10回目	1. 症状のアセスメントと看護(痛み・痒痒)	講義	
11回目	1. 症状のアセスメントと看護(脱水・嘔吐)	講義	
12回目	1. 症状のアセスメントと看護(浮腫)	講義	
13回目	1. 症状のアセスメントと看護(褥瘡・スキンケア)	講義	
14回目	薬物療法と看護	講義	
15回目	終了試験		
評価方法	筆記試験(100%)		
受講生に対するメッセージ	解剖生理学・病態治療論での学びに、老年期の特徴を併せた積み重ね学習になります。1年次の復習を行い、しっかり準備して授業に臨んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾病論 医学書院		
参考書	なし		

授業科目及び時間数	高齢者の日常生活を支える看護 1単位 30時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	吉田聖乃	実務経験	有
<p><科目のねらい></p> <p>加齢変化や老年期特有の疾患により、立つ・座るといった基本動作を基盤とした食事・排泄・清潔などの生活行為が、どのように障害され、どのような援助技術が必要になるのかを学び、知識を身につけることをねらいとした単元である。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体に加齢変化や老年期特有の疾病が及ぼす日常生活への影響を理解する。 2. 事例を通して、具体的な援助方法を理解する。 			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 高齢者のアセスメント	講義	
2回目	1. 食事・食生活	講義	
3回目	1. 排泄	講義	
4回目	1. 清潔	講義	
5回目	1. 生活リズム	講義	
6回目	1. コミュニケーション	講義	
7回目	1. 基本動作と環境、転倒、廃用症候群	講義	
8回目	1. 活動・休息援助技術（自動・他動運動）	講義・演習	
9回目	1. 事例を通して日常生活援助を考えよう	グループワーク	
10回目	1. 事例を通して日常生活援助を考えよう	グループワーク・演習	
11回目	1. 事例を通して日常生活援助を考えよう	グループワーク・演習	
12回目	1. 治療を必要とする高齢者の看護	講義	
13回目	1. 生活・療養の場における看護	講義	
14回目	1. エンドオブライフケア	講義	
15回目	終了試験		
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	既習の知識を活用した講義中心の授業です。授業前には、老年看護概論・高齢者の症状に応じた看護で学んだ内容を復習して臨んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 出版社：医学書院		
参考書	なし		

授業科目及び時間数	老年看護の展開方法 1単位 15時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	田村万寿美	実務経験	有
<p><科目のねらい></p> <p>老年期の特性を基盤とした生活機能の視点から看護の展開方法を学び、看護実践ができる力をつけることをねらいとした単元である。</p> <p>多くの高齢者は、慢性疾患や障害を持ちながら暮らしており、これまでの問題解決思考型による看護展開だけでは対応が難しい。そこで、ストレングスモデルを用いて、高齢者が望む生活に近づける援助について学習する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の強みを生かし、目標志向型思考の看護展開ができる。 2. 高齢者が望む生活への援助が考えられる。 			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 授業ガイダンス 2. 老年看護の考え方	講義	
2回目	1. 生活機能の視点について 2. ストレングスモデル	講義	
3回目	1. 事例提示	事例デモンストレーション	
4回目	1. 情報整理・情報共有	グループワーク・個人作業	
5回目	1. 看護問題の共有	グループワーク・個人作業	
6回目	1. 看護計画立案	グループワーク・個人作業	
7回目	1. 看護援助の実施・評価	演習	
8回目	終了試験		
評価方法	筆記試験 (50%) 看護展開提出物 (50%)		
受講生に対するメッセージ	看護の展開方法を学ぶ授業になります。これまでの問題解決型思考だけではなく、『生活している人』に求められる援助とは何かを考えるために、普段から自分自身の感性を磨き、感じ・考えられるよう準備をしてください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 出版社：医学書院		
参考書	なし		